自大正三年十月至同年十二月 伊太利派遣員業務詳報（其二）

一、操縦將校以下學校附ノ件ニ關シ十月十日附監督將校ヨリ左ノ報告アリ

歩兵中尉　中村順太郎
騎兵中尉　岩富英
歩兵中尉　坂本貞彦
同　松岡勝藏
工兵中尉　渡邊廣太郎
歩兵中尉　菱沼一
同　神谷正男
工兵中尉　儀峨辰三
騎兵中尉　森隆
工兵中尉　森蕃樹

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

歩兵中尉　徳留清一
砲兵中尉　山本直猪
騎兵少尉　喜早收治
同　福士剛
砲兵少尉　松原克巳
仝　須永鶴松
仝　森玉徳光
歩兵少尉　加藤敏雄

右十二月日ヨリ在「カスシナコスタ」(Casina Costa)「ミラノ」近傍陸軍飛行學校ヘ附属致候間及伺出候也

學校名　Campo Scuola di Cadine Costa.

所在地　Gallarata Lombardia, Italia.

職工　壹百名

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

右十月一日ヨリ在「トリノ」陸軍飛行機職工學校ノ附屬致
候間及御屆候也

學校名 Scuola militare motoristi e
monteatori d'aeroplani.
Torino Italia

一、儀峨中尉墜死ニ關シ十月二十九日仙波少佐ヨリ左ノ電報
アリ（政受第二〇一八號其一）
飛行將校全部目下ミラノ西北方四キロノ「ガルラレ」附近カ
スシナコスタ」飛行學校ニテ基本操縱ノ教育ヲ受ケツツ
アリ儀峨中尉ハ十月二十日午前二回ノ同乘飛行午後五回
ノ單獨飛行ヲ為シ午後四時三十分第六回ノ飛行ニ於テ
離陸後高度一五〇米ニ達シタルトキ突然機体ハ二回ノ
右旋回ヲナシ、機首ヲ下ニシ地上ニ墜ケタリ原因ハ發動

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

機々能不調ニ依レルカ如ク致命傷ハ頭蓋骨粉砕骨折ナリ中尉ハ技術優秀ニシテ他ニ抜ミテ此日始メテ単獨飛行ヲ許可サレシニ其ノ職ニ殉シタルハ哀悼ノ至リナリ飛行場ト「ミラン」ニテ葬儀ヲ行ヒタル後火葬ニ附シ遺骨ハ「ローマ」ニ保管ス時機ヲ見テ内地ニ還送ノ筈儀、峨中尉ハ戦死者トシテ進級叙位叙勲ノ詮議アリタシ

一、十月二十五日 仙波少佐ヨリ左ノ電報アリ

陸第二三号

一、飛行ヲ将校ヲ[illegible]ト略記ス飛行機ハ一般飛行練習一ヶ月半専門飛行教育ハ二ヶ月半将校勤務一ヶ月ニシテ四月末ニ教育ヲ完成シ其後一ヶ月器材ノ研究ニ場ノ實習ヲナサシムル豫定職工ハ學校教育三ヶ月半飛行場

欧受第六八号
其二七

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ト飛行隊ニテ實習二ヶ月半アル豫定ナリ

二、以上將校職工ノ両教育ハ五月末完了ノ豫定ナルモ一ヶ月ノ餘裕ヲ見込六月末帰還輸送ノ為艦船豫メ計画アリタシ

三、主置中佐ヲシテ終リノ時期約二週間佛國視察シナサシメ度キ希望アリ認可アルヤ

四、飛行將校教育區分ハ爆弾投下八名駆逐十名ノ所偵察中尉死亡ノ為駆逐九名トナリ小澤少尉ノ特業ハ到著後決定ス飛行將校ハ初メ「アビヤチック」次ニ「サルロモテイパン」飛行術ヲ習得シ駆逐專門者ハ「スパット」次ニ Falilla 爆弾投下專門者ハ「カブロニ」複葉成シ得レハ三葉ニ熟達セシムル目的トス

Falilla ハ攻撃用トシテ最モ優秀乃ニシテ操縦者ノ熟達ヲ要スルモノナリ飛行將校ノ帰還後其ノ技ヲ發

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

揮シ且飛行教育實施ノ為ニ上述飛行機若干宛購入ヲ必要ト認ム但シ三葉ハ必スシモ必要ナルヤ疑問ナリ各飛行機價格追テ報告ス

一、右ノ電報ニ依リ次官ヨリ仙波少佐ヘ左ノ通電報ス（廿七日政發第七〇號）

飛行機及職工ノ教育ハ陸第二三號貴電ノ通實施ス月末出發歸還スルコトトシ船舶ハ貴方ニ於テ計画アリタシ佛國旅行ハ詮議スベキニ依リ豫定人名電報シ飛行機購入ハ差向キ必要トセサル見込ナリ又政發第一六三二號ヲ以テ問合セタル所要教育費ニ付テハ旅費ヲ除キ内譯至急承知シタシ

之ヨリ先一月二日附伊派經第二號（政受第二〇一八號其三）ヲ以テ義我中尉ノ葬儀ニ關シ風俗習慣等異ニセル關係上多額ノ經費ヲ要スルヲ以テ臨時陣亡費支辨方

儀我中尉葬儀費ノ件（政受第二〇一八號其三）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

申請アリ

左記

葬儀費壙費習額調書

金額	事由
四六九〇〇	「ガラテー」ヨリ「ミラノ」羅馬迄遺骸許可手續料
六二五〇	死亡及葬儀廷願令ニ要セシ印紙税
二五〇〇〇	葬儀車代
二八〇〇〇	右裝飾費
二五〇〇〇	柩代
一三五〇〇	遺骨容器代
七八〇〇〇	火葬料
三一五〇	葬儀税
二二六〇〇〇	

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

本申請ニ依リ次官ヨリ仙波少佐ヘ宛右請求ノ經費臨時軍事費機密費五千圓發送スヘキ旨ノ電セリ

又大臣ヨリ別ニ樞前ニ花環ヲ奠ヘラレタリ

一、一月二十七日照電ニ對シ二月十七日(欧受第一六八一號其三一、其三二、其三三)左ノ通ノ電アリ

陸三一

一、飛行將校ノ教育ハ駆逐ノ為「アビアチック」「サムル」「スヴァ」「ハリラ」及射撃ノ教育ヲ又爆撃ノ為「アビアチック」「サムル」「カボロニー」及爆弾投下ノ諸教育ヲ完成スル為ノ時間ト經費トハ概ネ左ノ如シ

「アビアティック」	五四〇	三七〇〇リール
「サムル」	八四〇	〃 八二〇〇リール
「スヴァ」	六二四	〃 七二〇〇リール

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

「ベリラ」　一五〇〇〇　〃　一七〇〇〇リール

射撃教育　四六五　〃　三六〇〇〇リール

カボロニー　五七五　〃　一、四七〇〇〇リール

爆弾教育　一二四　〃　三四〇〇〇リール

即チ駆逐一名ノ為約二、四四〇〇〇又爆弾一名ノ為二〇〇〇〇トナル此教育費ハ陸第十八号ノ報告ノモノニ比シ多額ナルカ如キモ先ニハ基本教育ノ費用ヲ含マサリシニ依ルモノナリ上記教育費ハ其一分ノ間ノ割合陸第一八ノモノヨリ著シク安價ナリ是レ上記ノ教育費中ニハ見積不確實ナル飛行機破損ノ辨償金ヲ顧慮外ニ置キ實費ヲ計算シタルニ依ル故ニ過般不適當トナレル二名ヲ九名ノ豫備爆弾手トセハ其教育費四二九六〇〇〇リールトナル尚技倆ニ應シ上記ノ時間ヨリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

航空飛行ヲ要スル場合ニハ相當割合ニテ教育費ヲ頂戴スヲ是レカ豫備トシテ更ニ二割ヲ見積レハ飛行將校教育費ハ約五一五〇〇〇トナル

二、職工教育ハ一名ニ就キ発動機工二〇〇「リール」組立工一〇〇「リール」ニシテ総員一〇〇名ノ為約一五〇〇〇「リール」ヲ要ス

三、以上両者ヲ合シ教育費約五三〇〇〇〇〇「リール」ヲ要ス

飛行機破損ノ賠償金ハ確實ナル豫算立タサルヲ以テ少クモ二〇〇〇〇〇「リール」ヲ見込置カレタシ

陸軍

一、我派遣職工ノ教育ハ語學ノ關係上甚困難ナルモ興味ナ少佐ノ盡力ニ依リ良好ナル進歩ヲ見ツツアリ即チ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

下士及技手ニ對スル教育次ニ此幹部ヨリ職工ニ對スル普通教育ノ二團ニ分チテ教育ヲ行ヒ櫻井少佐ハ伊國教官トノ間ニ立チ必要ナル說明ノ勞ヲ執リ本月本語ニテ教程ヲ編纂シ次ニ次分配教育ノ要ニ供セリ今回少佐ノ歸朝ハ教育上大打擊ナルコトヲ特ニ報告ス

二、今後ノ教育手段ニ關シ玉置中佐ハ櫻井少佐ト打合ノ上速ニ今少佐歸朝ニ就カシム

三、復員及戰役整理調査ニ關シテハ櫻井少佐ハ今日迄其豫裕ナク引繼ノ關係ナシ

陸ニ二

一、飛行機將校ハ一月末迄ニ全員十六名共 aviatiker ヲ卒業セリ Jame ノ卒業ハ半數二月中旬他ノ半數ハ二月下旬ノ豫定ナリ教育遲レ居ルモ豫定ノ滯在期間ニ陸二

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

三 帰ノ計画通修業ナシ得ル見込

二、修業飛行機中少クモ avviatore Avro Caproni

ノ若干購入ヲ希望ス飛行機ノ價格ハ次ノ如シ

avviatore	三八、五〇〇リーラ
Anne	五一、九五〇リーラ
Avro	五七、四〇〇リーラ
Ballilla	四八、五〇〇リーラ
Caproni	一一〇、五〇〇乃至一七五、三二六

以上飛行機ノ購入ハ修得者帰朝後重要缺クベカラザル

コトハ陸二三帰ニ依リ既ニ上申シタル通リ尚飛行機購

入ニ關シテハ主置中佐出発前我航空關係上官ヨリ御

内示モアリ伊太利當局ニ對シテ購入ノ希望アルコトヲ申

出タリ上記價格ハ其調査ノ結果ナリ故ニ今日全ク購入

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

セサレハ國交上面白カラサルコトト思考ス

三、佛國旅行ニ關シテハ玉置中佐以下派遣將校全部

二十四名ニ對シ御許可ノ詮議アリタシ

二月二日 仙波少佐ヨリ左ノ電報アリ（欧受第一六八号其三）

騎兵中尉森隆吉、砲兵中尉山本直猪ハ一月以來受

持教官ヨリ飛行機操縦不適任ト認メラレタリ一日

廿日航空候補者生理衛生試驗所ニシテ檢査ノ上

操縦トシテ不適當ナル旨決定セラレタルニ付玉置中佐

ノ意見ニ基キ航空機實驗トシテ研究セシムルコトトシ

當月廿四日差當リ職工學校ニ入校セシメタリ

二月二十日（欧受第一六八号其三五）仙波少佐ヨリ左ノ電報

アリ

伊國派遣員ノ教育ハ早クモ五月中旬ニアラサレハ完成スル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

コト能ハス併シ郵船倫敦支店ト交渉ノ結果ニ依レハ郵船ハ伊國ニ寄港セサル故是非倫敦ニテ乗船セサルヘカラス從テ旅行日數ヲ要シ又目下乗船多キタメ差遣員ノ使用シ得ル船室少ク已ムヲ得ス三船ニ分乗シ其第一船ハ六月三日トシ第二船ハ七月、第三船ハ七月十九日出帆スルコトニ同支店ト既ニ契約セリ若シ特ニ日本ヨリ運送船ヲ伊國ニ廻航セラルレハ五月下旬乗船セシメ得キモ然ラサレハ前記計畫ニ從フ外ナシ

櫻井少佐帰朝ニ付在「トリノ」職ニ教育ニ困難ヲ感スルヲ以テ永持少佐調査ノ任務ヲ一時中止シ三月末ヨリ職ニ教育ニ專任セシメ度旨正置中佐ノ請求アリタルニ付認可アリタキ旨三月二十八日(函受第一六八號其筋)

仙波少佐ヨリ電報アリ申出ノ通取計差支ナキ旨文電

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

セリ

第一回學校附終了セシ者左ノ如シ（三月十日至置中佐報告）

歩兵中尉　松岡勝藏

工兵中尉　渡邊廣太郎

砲兵中尉　森蕃樹

騎兵少尉　喜早牧治

同　福士剛

砲兵少尉　松原克己

同　須永鶴松

同　森玉德光

歩兵少尉　加藤敏雄

以上二月三日

歩兵中尉　中村順太郎

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

輜重兵中尉　岩富英
歩兵中尉　坂本眞彦
同　菱沼一
同　神谷正男
同　徳留清一
歩兵少尉　小澤直治

以上三月六日

右各前記ノ期日ニ於テ「カスシナコスタ」陸軍飛行學校附屬ヲ終リ同時ニ「マルペンサ」陸軍飛行學校ニ附屬セリ

新附屬學校 Campo Scuola di Malpensa,
「ミラノ」附近

「三月九日仙波少佐ヨリ左ノ電報アリ（陸三五）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

伊國飛行機ニ關シ玉置中佐櫻井少佐及ト官ノ意見左ノ如シ

我飛行將校ハ「アビヤチック」百馬力「サルムソン」二百馬力ヲ終レリ

「アビヤチック」「サルムソン」ハ高速度飛行機ノ楷梯トシテ價値ヲ認メラレ又驅逐專門タル「バリラ」操縱ノ楷梯トナルモノナリ

「カプロニー」ハ爆彈投下用トシテ特種ノモノナリ教育ノ爲購入セントスレバ「アビヤチック」「サルムソン」ノ二通リトシ戰鬪材料參考ノ爲ナラバ「スベ」「バリラ」「カプロニー」三種トシ購買費ノ爲ニ制限セラルルトキハ「スベ」「サルムソン」ニ重キヲ措カレタシ

大正八年四月四日 玉置中佐報告左ノ如シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

伊太利派遣職工　百名

右者在「トリノ」陸軍飛行機工學校ニ附屬ノ處三月三十日同校ノ附屬ヲ終ヲシ同時ニ「マルペンサ」陸軍飛行學校ニ附屬セリ

新附屬學校名原語左ノ如シ

Campo Scuola di Malpensa.

次テ四月十五日同官ヨリ更ニ左ノ報告アリ

輜重兵中尉　岩富英
歩兵中尉　松岡勝藏
工兵中尉　渡邊廣太郎
歩兵中尉　神谷正男
砲兵中尉　森蕃樹
騎兵少尉　喜早收治

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

同　福井

砲兵少尉　須永鶴松

歩兵少尉　加藤敏雄

同　小澤直治

右者四月十二日「マルペンサ」陸軍飛行學校附屬ヲ終了シ四月十四日「フルバラ」陸軍射撃及高等飛行學校ニ附屬セリ

新附屬學校ノ原語左ノ如シ

Comando Centro Scuola Militare, Tiro e aerologia, di Furbara, (Roma) Lazio, Italia.

一、五月三日　仏波ヨリ左ノ電報アリ

岩富軍事重砲兵中尉ハ五月二日午前十時三十分羅馬北方ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

バラ飛行場ニテ約千米ノ高度ノ水平旋轉ヲ練習中機ハ姿勢ヲ回復スルニ至ラスシテ墜落シ顔面ヲ劇甚ク破碎死亡セリ再ヒ此不幸ヲ見遺憾ニ堪ヘス

又本件ニ對シ五月十三日仏波少佐ノ更ニ左ノ電報アリ

岩富中尉ノ遺骸ハ羅馬ニテ五日次葬ニ附シ在官宅ニテ葬儀ヲ了リ其遺骸ハ大使館ニ保管シ派遣員帰還ノ使ニ托スル豫定

（岩富中尉ノ墜落死亡ノ状況ニ付テハ八年欧受第三四三號其一参照）

左八年五月十日欧発第三四六号

一、欧受第一六八一號（其三一、其三二、其三三）ニ對シ五月十日欧発第三四七號ヲ以テ次官ヨリ仏波少佐ノ左ノ通送電セリ

伊國派遣飛行將校及職工ノ教育費ハ貴電ノ通文書ノコトヲ了承セラル、歸朝ノ為ノ運送船ハ内地ヨリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

回航シ得サルニヨリ貴電ノ計画ニ依リ實行サレタシ飛行機ハ Swe 二臺 Sand 二臺計四臺購入方當局ヘ交渉アリタシ右調辨ハ表方陸軍航空部本部ヘ達セラレタルモ同部ヨリ依托ノ形式トシ玉置中佐共協議ノ上受領並輸送等可然取計アレ經費決定セハ航空部ヘ請求アリタシ

一、九月十五日玉置中佐ヨリ左ノ電報アリ（仙波陸四五、改受第一六八一號）

イ、操縦飛校ハ教育終了後六月上旬伊太利戰場ヲ見學シ、職工輸送ニ關係ナキ者ハ所要ノ指示ヲ共ヘ佛國ヲ經テ英國乘船地ニ至ラシム

ロ、職工ハ六月上旬乃至七月上旬迄伊太利ニ於テ實習ヲ継続セシメ所要ノ幹部ト共ニ英國乘船地ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

至ラシム

3、乗船区分ハ左ノ如シ

伊豫丸

熱田丸

静岡丸

一、左記申請及電報ニ依ル経費ハ五月二十日改発第三九七號ヲ以テ伊派経第四號ハ申請ノ通認可セラレ又仙波陸第四十號照會ノ前渡金ハ送金方取計ヒ齊ノ旨主置中佐ヘ返電シ別ニ東京経理部長ヘハ前記前渡金五万七千圓ヲ伊國派遣員出納官吏宛電報送金方取計フヘキ旨五月十日改発第四〇〇號ヲ以テ達セラレタリ

左記

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

八、三月十四日伊派經第四號（大正八年函受第五九一號）

伊國派遣員監督將校ヨリ大臣宛

自大正八年三月二十六日ヨリ至九月六日間別紙ノ通臨時軍事費所要ニ付支出方認可相成度算出明細書相添ヘ及申請候也

追テ送金受領額貳拾四万圓ノ使用方ニ就テハ別紙計算書備考ノ通ニ候条為念申添候

（明細書及計算書略ス）

九、四月十七日仙波陸第四〇號（函受第一六八一號其四六）

玉置中佐ヨリ陸軍省宛電報

派遣軍經費　二四〇、〇〇〇圓ノ送金四月九日受領ス其中金一九七、〇〇〇圓ノ申請書ト本年三月十四日伊派經四號ニテ呈出セシモ帰還旅費、接待費、物件

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

費等其ノ後ノ使用約一、〇〇〇、〇〇〇圓トナルニ付差引尚
五七、〇〇〇圓主計宛送金アリタシ
右ノ内持待費ヲ二、六〇〇圓將校戰場見學旅費ヲ
一、七〇〇圓仙波少佐ト協議ノ上見込アルニ付御認可
ヲ請フ
送金日數ハ從來約四十日ヲ要スル故之ヲ見積リ
準クモ六月初旬迄ニ到著スル樣上記ノ差引額傳
送ノ取計ヲ乞フ
一、九月三十日仙波少佐ヨリ左ノ電報アリ（陸四八、函受第六八號
其五四）
駆逐操縱將校全部 Dallila ヲ以テスル最後ノ戰
鬪技術ヲ卒業セリ Dallila ハ佛ノ Spad ニ比シ
高度高ク速度著シク大ニシテ優秀ナル機械ナルコトヲ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

確ノ玉置中佐、岡大尉等購入飛行機中更ニ

二、三臺ヲ加ヘンコトヲ切ニ希望セリ御詮議ヲ乞フ

一、在八年十二月六日 監督將校玉置中佐ヨリ左ノ報告アリ

歩中尉 松岡勝藏　工兵中尉 渡邊雅太郎

同 神谷正男　砲兵中尉 森 蕃樹

騎兵中尉 喜早收治　騎兵中尉 福士 剛

砲兵中尉 須永鶴松　歩兵少尉 加藤敏雄

歩兵少尉 小澤直治

右者伊國「フルバラ」陸軍飛行及高等飛行學校附屬ノ

處 五月十九日ヲ以テ退校致候間及屆出候也

歩兵中尉 中村順太郎

同 坂本眞彦

同 菱沼 一

一二二 [illegible]

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

歩兵中尉　德萬清一

歩兵中尉　松原克巳

同　森玉德光

右者伊國「マルペンサ」陸軍飛行學校附屬ノ命ニ依リ六月五日ヲ以テ終了退校致候條及報告候也

一、六月二十八日　玉置中佐ヨリ左ノ電報アリ（六年二月受第六八号）

其五七

伊國派遣將校及職工教育ハ本月初旬迄ニ終リ歸朝ハ豫定ノ如ク三段ニ分ルルモ將校ハ玉置、岡、多田、寺師高橋ノ五名ヲ除キタルモノ全部伊豫丸ニテ又多田ハ熱田丸ニテ玉置、高橋ハ靜岡丸ニテ歸還シ又判任官以下ハ概ネ三段ニ等分ス内地着ノ際將校ハ陸軍省ニ出頭シ指示ヲ受ク又判任官以下ハ直ニ原隊ニ歸

派遣者ノ内地歸還

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

派遣団ノ帰朝

スル如ク示シ置ケリ

一、伊太利派遣員ハ三團ニ分レ（岡、寺師ノ二名ヲ除ク）七月十六日伊國出発帰朝ノ途ニ着ケリ

イ、第一團ハ六月十八日伊國「ミラノ」市出発六月二十六日倫敦出帆ノ伊豫丸ニ乗船シ八月十七日神戸上陸帰朝ス（将校十七名、下士一、判任官一名、職工三十七名）

ロ、第二團ハ七月二日「マルペンサ」飛行學校出発七月四日（汽車）巴里着七月七日英國軍用船ニ便乗佛國「ブーローニュ」出帆翌日英國「ドーバア」港ニ上陸ス七月十二日熱田丸ニ乗船「ローヤルブックドワク」ヲ出帆八月二十三日神戸着帰朝（将校一名、上長二名、技手一名、職工三一名）

ハ、第三團ハ七月二十六日熱田丸ニ乗船倫敦出発九月十日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

神戸着帰朝（将校五四中佐以下二名、搭乗一名職工三名）

遣伊飛行團ニ關スル所見

一、遣伊飛行團ハ初メ伊國航空援助ノ目的ヲ以テ派遣セラレタルモノナルヲ以テ之ニ要スル經費ハ伊國政府ニ於テ負擔スル筈ナリシガ輸送途中休職トナリタル為伊國航空援助ハ全ク其必要ナキニ至リ伊國政府ト累次ノ接衝ニ依リ經費ハ帝國政府ニ於テ支拂スルコトトナリ總計約金四十二万七千圓ヲ支拂ヘリ

二、遣伊飛行團ハ着伊後航空ニ關スル特種技術（高等飛行術、空中戰鬪術、飛行機材ノ製作取扱等）ヲ修得シ目下本邦陸軍ニ於ケル航空技術直接指導者ノ一部ヲ成形シ、其航空技術ノ進歩ニ貢獻シツツ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

アルノミナラス派遣員ハ欧洲ニ於ケル航空界発展ノ實情ヲ目擊調査シ來リタルヲ以テ過般来来朝ノ佛國航空團ノ教習ト相俟テ帝國陸軍航空界ニ與ヘタル効果ハ頗ル顯著ナルモノト認ム

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

別表

伊國派遣操縦將校修得課目一覽表

修得課目	使用飛行機	所屬	官氏名
			騎兵大尉岡樋之助
爆撃	アビアチック、サムル、カプロニー	航空四	歩兵大尉中村順太郎
〃	同	航空學校	同　坂本真彦
駆逐	アビアチック、サムル、ズッペー、バリーラ	〃	歩兵中尉松岡勝藏
爆撃	アビアチック、サムル、カプロニー	航空四	〃　甘麦沼一
駆逐	アビアチック、サムル、ズッペー、バリーラ	航空學校	〃　神谷正男
爆撃	アビアチック、サムル、カプロニー	〃	〃　德西清一
駆逐	アビアチック、サムル、ズッペー、バリーラ	〃	歩兵少尉加藤敏雄
同	同	航空二	〃　小澤道治
同	同	航空一	騎兵中尉喜早收治
同	同	航空一	〃　福士剛

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

駆逐	アビアチック、サルル、スパー、バリーラ	艦二	駆逐隊 軍中尉 森蕃樹
爆撃	アビアチック、サルル、カプロニー	艦学校	同 森玉德光
駆逐	アビアチック、サルル、スパー、バリーラ	〃	〃 須永鶴松
〃	〃	〃	〃 渡邊唐郎
機関銃		艦ラ部	駆逐隊 森隆吉
〃		〃	砲中尉 山本直猪

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

別紙第一

伊太利派遣員ニ關スル規定

一、派遣ノ目的ハ伊國軍ノ航空事業ヲ援助スルニ在リ

二、派遣將校以下ノ連名簿別冊ノ如シ

將校以下派遣間ハ諸事總テ監督將校ノ指揮監督ニ屬ス

三、派遣將校同相當官ハ已ニ得サルモノニ限リ時所屬部隊ノ定員外ト爲スコトヲ得下士及判任文官ハ所屬部隊ノ定員外トシ雇員及職工ハ依然臨時軍用氣球研究會及東京、大阪兩砲兵工廠ノ所屬トス

四、職工ハ歸朝後少クモ三箇年間ハ陸軍ニ於テ指定スル航空事業ニ關係アル工場等ニ服務スヘキ義務アルモノトス

派遣期間ハ前項ノ期間ハ陸軍軍屬トシ其ノ報酬ハ各

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

其ノ所屬庭ニ於テ行フモノトス

五、派遣員ハ請願ニ依リ中途帰朝スルコトヲ得ス

六、派遣ニ要スル經費ハ臨時軍事費ノ支辨トス

派遣員ノ諸給與ハ派遣ヲ命セラレタル日ノ翌日ヨリ臨時軍事費ニ移ルモノトス

七、前項所要ノ經費ハ概ネ三箇月毎ニ陸軍東京經理部ヨリ出納官吏タル派遣員主計宛送金セシム

八、監督將校ハ金櫃ノ管守法ヲ定メ之ヲ報告スヘシ

九、派遣員ニ係ル俸給、給料及宅料ハ為守宅ニテ受領スルコトヲ得但シ留守宅渡金支給廳ハ陸軍東京經理部トス

十、派遣向ニ於ケル雇員及職工ノ給料左ノ如シ

雇員　月額　五拾圓以内

職工　日額　平均弐圓以内

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

十一、派遣員ノ旅費ハ外國旅費規則ノ定ムル所ニ據ル尚左ノ
六等陸達第四十九號ノ臨時增給ヲナスモノトス但シ宿舍糧
食等ヲ支付スル場合ニハ相當額ヲ控除ス
十二、操縱者一名ニ對シ航空被服一組職工一名ニ對シ作業
帽及作業衣袴二組ヲ貸與ス
前項航空被服ハ半數、作業帽及作業衣袴ハ全部
陸軍被服本廠ヨリ之ヲ交付シ其ノ他ハ伊國ニ於テ適
宜調弁スルモノトス
十三、派遣員中生死不明者ノ俸給並死亡者ノ埋葬料ニ關シテハ
戰時給與規則、同細則ヲ適用ス
十四、傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノノ藥餌ハ總テ官給
ス
十五、派遣間ニ於ケル砲兵工廠定期職工ノ就業年數ハ砲兵工廠

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

定期職工扶助令ノ適用上之ヲ就業年數ニ通算ス

十六、派遣中ニ要スル事務用品ハ總テ官給ス

十七、派遣員ノ為藥劑行李及軍醫携帶嚢各一具ヲ準備携行スルモノトス 該品ハ陸軍衛生材料廠ヨリ之ヲ支弁ス爾後ノ補塡ハ地方調辦ニ依ルモノトス

十八、派遣員ノ為公用行李ニ金櫃一ヲ携行スルモノトス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

別紙第二

伊太利派遣職工心得

一、直屬監督者及教育指導者ノ指揮及指導ヲ受ケ飛空技術ニ關係アル作業ニ從事シ誠實ニ伊國飛空事業ノ援助ニ勉ムヘシ

二、實務ノ服行居常ノ動作等ニ關シテハ總テ監督者ノ指示ニ服從シ協同和親奮勵努力各自技術ノ練習ヲ圖ルヘシ

三、技術上ニ關シ彼等ノ長ヲ採リ以テ我カ短ヲ補フハ大ニ努メサルヘカラサルモ遽ニ彼等ノ爲メ所ニ心醉シ殊ニ思想上ニ關シ悪風ニ感染セサル樣注意スヘシ

四、「郷ニ入リテハ郷ニ從ヒ」ノ諺ニ由リ伊國ノ風俗、習慣ヲ尊重シ禮儀ヲ重ンシ服務ヲ端正ニシ豪放粗暴ノ言動アルヘカラス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

五、品行ヲ方正ニシ態度ヲ嚴正ニシ帝國臣民タルノ體面ヲ損スルコトヲ勿レ徒ニ放縱ニ流レ酒色ニ耽リ或ハ國法ヲ犯シ以テ汚辱ヲ受クルカ如キコトアルヘカラス

六、身上其他公私ヲノ行動ニ就テハ良ク監督者ノ指示ヲ受ケテ處置スルヲ要ス之カ爲常ニ意思ノ疎通ヲ圖リ萬事ヲ監督者ニ開陳シ失態ヲ未然ニ防ク如クセサルヘカラス

七、人情、風俗、習慣ノ相異及言語ノ不通ハ動モスレハ相互意思ノ疎隔ヲ来タシ易キヲ常トスルモ喧嘩口論ハ嚴禁トス若シ外國人トノ間ニ問題ヲ惹起シタルトキハ自ラ之ヲ解決セントスルコトナク直ニ監督者ニ開陳シテ其ノ處置ニ委ヌルヲ可トス

八、技術上其他ノ事項ニ付テ有益ナリト認ムルモノアルトキハ漫ニ之ヲ本國ニ私報スルコトナク必ス監督者ニ申出テ其ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

指示ヲ受クベシ

九、信書ノ檢閲嚴重ナルヲ以テ信書ノ内容ニ就テハ注意ヲ要ス特ニ軍事上ニ關スル事項ハ勿論他國ヲ批評シ又ハ他國人ノ感情ヲ害スルカ如キ通信ハ之ヲ避ケサルベカラス

一〇、我國ノ機密、秘密ノ事項ヲ彼ニ洩ササルト同時ニ亦彼ノ秘密トスル所モ強テ之ヲ質スカ如キコトアルベカラス

一一、就業時間中ハ監督若ハ指導者ノ許可ナク就業場所ヲ離ルルヲ禁ス又休憩時間中ト雖指定区域外ニ出ツルヲ許サス

一二、宿營ノ所定区域外ニ出テントスル時ハ必ス順序ヲ經テ監督將校ノ許可ヲ受クベシ

一三、氣候風土及日常生活狀態ニ激變ヲ生スルヲ以テ健康ヲ害セサル様充分個人衛生ニ注意シ身体ニ異狀アルトキ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ハ職工取締ニ申少々テ派遣軍醫ノ診斷ヲ受クヘシ

一四、目下戰爭ノ為伊國ニ於テハ一般ニ物資ノ缺乏甚タシク食糧ニモ制限ヲ加ヘツツアルカ如キ際ナレハ忍耐ヲ第トシ且諸事節約ヲ旨トスヘシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

別式第三

伊國派遣將校以下連名簿

監督將校	陸軍工兵中佐	玉置美之助
技術監督	仝	砲兵少佐	櫻井養秀
補助官	仝	騎兵大尉	岡 楢之助
通譯將校	仝	歩兵大尉	多田德久
軍醫	仝	二等軍医	寺師義信
主計	仝	二等主計	高橋信夫
操縱將校	仝	歩兵中尉	中村順太郎
同	仝	歩兵中尉	坂本真彦
同	仝		松岡勝藏
同	仝	工兵中尉	渡邊廣太郎
同	仝	歩兵中尉	菱沼一
同	仝		神谷正男

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

同	陸軍騎兵中尉	森　隆吉
同	仝　砲兵中尉	森　蕃樹
同	仝　歩兵中尉	徳留　清一
同	仝　砲兵中尉	山本　直猪
同	仝　騎兵中尉	喜早　収治
同	仝	福士　剛
同	仝　砲兵中尉	松原　克己
同	仝	須永　鶴松
同	仝	森玉　徳光
同	仝　歩兵少尉	加藤　敏雄
同	仝	小澤　直治
事務員	陸軍技手	利根川流哉
職工監督	仝　砲兵等木長	森　寛

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

職工監督　陸軍砲兵準銃工長　高倉安次郎
同　　仝　　村上寅喜
同　　陸軍技手　阿部清治
事務員　雇員　鈴木八郎

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

職工連名簿　其一　東京砲兵工廠所属分

職工名	資格	氏名
〃		
發動機工		佐藤正先
〃		長谷川治郎
〃	定期職工	清水六郎
〃	〃	川端徳三郎
〃	〃	田中信三
〃	〃	吉野庫之助
〃		深瀧巷太郎
〃	定期職工	千代田春吉
〃		山内柳次郎
〃	定期職工	関井政一
〃	〃	矢澤豊太郎

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

発動機工		塩川金次郎
仝	定期職工	大谷簡
仝	仝	渡邊直吉
仝	仝	山口定一
仝	仝	毛利吉五郎
仝		髙橋格一
仝	定期職工	野澤國次郎
機械工		古川四郎
仝	定期職工	中山光三郎
仝	仝	永澤直吉
仝	仝	市村小四郎
仝		田村鐵治
仝		來川勝次

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

仝	定期職工	梅澤與作
仝		櫻井德次郎
仝	定期職工	後藤六三郎
仝	仝	小林鉦太郎
仝		池田勝郎
仝		高岡寅松
仝		相澤國平
仝	定期職工	淺井永昌
仝	仝	廣瀨茂造
組立工		關市兵衛
仝	定期職工	前田啓造
仝	仝	荻原德太郎
仝	仝	佐藤八太郎

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

〃	〃	早川勝重
〃	〃	大谷内三郎
〃	〃	吉川徳蔵
〃	〃	青山勘吾
〃	〃	山田源治
〃	〃	石神恒一
〃		慶野菊三
〃		武居與市
〃		菊丈夫
〃		小林政吉
〃		石川万蔵
武装工		柴田要
〃	定期職工	高野春雄

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

仝	仝	吉川長助
仝	仝	鈴木兼吉
仝	仝	岡戸鍵吉
仝	仝	平山房吉
仝		長谷川鐵次郎
仝		根岸倍次郎
仝		山添五郎
仝		櫛田眞一
仝		岩原和雄
仝	定期職工	高橋富次郎
電気工		窪崎民次郎
仝	定期職工	栗山文吉
仝		和氣安三

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

電氣工

定期職工

柴田次吉

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

職工連名簿 其二 大阪砲兵工廠所属分

職名	資格	氏名
工		
發動機工	定期職工	河村千代政
仝	仝	甲本竹太郎
仝	仝	有田鼎峙
仝	仝	伊澤德二郎
仝	仝	井上清三郎
仝		井口弥三郎
仝	定期職工	上薮清三郎
仝		藤川美之吉
機械工	定期職工	阪上音松
仝	仝	清水惣八
仝	仝	中田甚作

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

組立工	定期職工	一文字清一
仝	仝	林義親
仝	仝	木原仁吉
電気工		磯部本明
仝		眞鍋米太郎

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

職工連名簿 其三 所沢臨時軍用気球研究會分

工名	資格	氏名
發動機工		坂田清三郎
仝		篠原春一郎
仝		菅沼利平
仝		佐藤捨藏
機械工		加藤多助
仝		谷田部西松
仝		長森梅次郎
仝		星野利三郎
仝		早川德次郎
仝		柿沼武文
組立工		大島儀三郎

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

組立工		近藤太藏
〃		須田竹藏
〃		長江正一
〃		前田長七
〃		添島福太郎
〃		上野民藏
武裝工		石井喜藏
〃		関根近吉
〃		山下與太郎

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

幹部人員區分表

將校	二三
同相當官	二
下士	三
技手	二
雇員	一
計	三八

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

職工差出區分表

種別／部隊	所澤	東京砲兵工廠	大阪砲兵工廠	計
發動機工	四	一八	八	三〇
機械工	六	一五	三	二四
組立工	七	一五	三	二五
武裝工	三	一二		一五
電気工		四	二	六
合計	二〇	六四	一六	一〇〇

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

押收飛行機用格納庫完成期日取急ノ件
欧受第九〇五號

自大正九年八月一日
至大正九年八月廿一日 戰利航空機受領ニ關スル業務詳報 其二

一、大正九年八月四日在獨兒玉大尉ヨリ押收飛行機並ニ部品ハ内地到著後直ニ整理ニ著手スルヲ要スルカ為所澤ニ建設スヘキ飛行場西北端大格納庫、停車場附近ニ建設スヘキ部品並ニ分解飛行機格納庫、各務原ニ建設スヘキ格納庫ノ一部ハ遅クモ十月中ニ完成スル如クセラレタキ旨電照アリタリ

一、大正九年八月十六日航發第四五八號ヲ以テ建築課ヘ左ノ如ク照會セリ

押收飛行機近ク内地ニ到著スル関係上既定計畫ノ通リ各務原ニ飛行機格納庫二棟建設方取計相成度及照會候也

追テ同格納庫ハ十月末日マテニ使用シ得タキ希望

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ニツキ申添候

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

獨逸ニ於テ航空器材購買ニ関スル件 改第九〇号ノ八

一、大正九年八月二十日渡邊少將ヨリ陸第三三號ヲ以テ左ノ電報アリタリ

兒玉大尉ヨリ左記ノ通電報アリ可否ニ就テハ至急何分ノ御指令ヲ仰キ度シ

次官宛兒玉報第五號

押收飛行機ノ情況ハ兒玉報第三號ヲ以テ電報セル通ナルモ細部ノ部品、附屬機械ニシテ獨逸政府ヨリ受領セルモノハ旧式或ハ重要部分ヲ破壞シアルモノ尠カラス特ニ軍用航空機ニ附屬スルモノニ在リテハ將來ト雖製造(七八字不明)時機ヲ失セハ購買スルニアラサレハ其後之ヲ手ニ入ルコト能ハス又「ユンケル」式金屬製飛行機ノ翼ニ使用スル「デユラルミン」ノ如キハ當地ニ於テ購買携行スルニアラサレハ押收飛行機局部ノ修理モ出来サルヘシ然ルニ當地ニ於ケ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ル調査ニ依レハ前記物件ヲ所持スル商人ハ獨逸政府ヨリ没收セラレン事ヲ懼レ一日モ早ク之ヲ賣却セントシテ列國モ亦手段ヲ盡シ秘密購買ニ努力シアレハ僅少ノ差ヲ以テ購入シ能ハサルユト多シ押收飛行機輸送費墺匈獨逸分ヲ合シ約五十萬円餘ニシテ是レ以上超過セサル豫定ナルヲ以テ此際輸送費百貳拾萬円ノ殘額ヲ利用スルカ或ハ補修費參拾萬円ノ内ヨリ約二十萬円ヲ支出シ補修研究料並ニ附屬機械ノ購買ヲ許可セラレ度シ購入スヘキ機械ハ前記ノ(七八字不明)品目ヲ指定セラルルモ購入不可能ナルモノ多ク且時機ヲ失スル時ハ全然購入不可能ナルヲ以テ其品目數量撰定ニ付テハ當方ニ一任セラレ度シ購買方法ハ漢堡三井代理人ト假契約ヲ為ス豫定何分指令ヲ乞フ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一、大正九年八月二十五日航空課々員外務省ニ出頭左記覚書ヲ作成ス

覚　書

一、獨逸國ヲリ軍用材料ヲ輸出スルコトハ一切條約ノ禁止セル所ナルヲ以テ本件ハ條約ノ解釋上ヨリ云ヘハ同意スルコト能ハス

二、然レトモ事實上ノ問題トシテハ本件ヲ實行スルコトハ已ムヲ得サル事情アリト認メラルルヲ以テ本件購買方ヲ全然三井ニ委セ陸軍々人其ノ他ノ官憲ハ之ニ對シ全ク無關係ノ立場ニ立テ三井ヲシテ極秘ノ中ニ其ノ計算責任ヲ以テ之ヲ實行セシムルノ手段方法（手段トシテハ出來得ル丈日本人ノ關係色彩ヲ少クスルコトニ留意スルヲ要ス）アリトセハ強テ之ニ反對スルニ及

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ハサルヘシ

一、大正九年八月末日三井物産代理人一色義寛ニ左ノ覽書ヲ指示ス

覽　書

一、購買品目　航空機部品及材料

二、價　格　所澤納メノ價格貳拾萬円以内（内地渡税ヲ除ク）

三、方　法

1、購買ノ方法手段ハ三井ニ一任ス

2、購買品目ハ在獨逸兒玉工兵大尉若ハ瀬戸少兵大尉若ハ陸軍指示スルモノノ指示ニヨルコト

3、事外交ニ關係アルヲ以テ表面陸軍々人及其他官憲ハ全ク無關係ノ立場ニ立ツコト

4、購買ノ實施ニ當リテモ出來得ル丈日本人ノ色彩ヲ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

大正九年九月四日
政發第四九六号ノ

薄クレ外交上ノ紛糾ヲ来スコトナキ樣努ムルコト

四、保　険

購買品ノ所澤納メ迄ノ損害危険等ノ負擔及
保険ハ総テ三井ニ於テ負フモノトス

一、獨逸航空器材購買ニ関シ次官ヨリ渡辺少將ヘ左
ノ如ク電報ス

陸媾第三三號　器材購買ノ電見タ、補修費ノ内
貳拾萬円（内地関税ヲ除キ且所澤納メノ價格トス）
ノ範圍内ニテ三井ヲシテ購買セシメラレタシ品目數量
ノ撰定ハ兒玉大尉、瀬戸大尉若クハ貴官ノ適任
ト認ムル者ニ一任ス但シ外交上慎重ノ考慮ヲ拂ヒ
陸軍々人其他ノ官憲ハ全然無關係ノ立場ニ立
チ且出来ル丈ケ日本人ノ関係色彩ヲ薄クシ三井

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ラレテ極秘ノ中ニ實施セレムルコトニ留意セレメラレタレ
購買其他ニ関シ在漢堡三井支店員トノ假契約
内容ハ至急報告セラレタレ當地三井本店トハ協議
済

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

獨逸制式飛行機格納庫ニ関スル件
昭和一六・五・一七

大正九年八月九日
陸機第二百十三号

一、大正九年八月九日陸機第二百七號ヲ以テ渡邊少將ヨリ左ノ電報アリ

完五報第四號返電

獨逸制式飛行機格納庫二棟ヲ日本政府ニ於テ分解輸送スルコトト為レリ該格納庫ハ鐵骨煉瓦製ニシテ奥行二十二米間口六十六米正面二十二米ノ入口三個ヲ有シ入口ノ高サ約八米格納庫内ニ支柱ナシ煖爐裝置ヲ有ス其ノ結構軍簡且ツ完全ニシテ寒冷地ニモ置クヘキ格納庫ノ好模範ナリ積出時期ハ未定ナルモ可成速ニ輸送スル豫定ナリ

一、大正九年八月十日渡邊少將ヨリ左ノ電報アリタリ

「ハンブルク」ニ於テ受領セル飛行機並發動機汽車輸送中梱包並ニ取扱不完全ナル為破損セルモノ又

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

高價ナル部品ニシテ盗取セラレタルモノ勘カラス其ノ概況左ノ如シ

機体主要部ノ破損殆トナキモ細部破損ノ変形セルモノアリ大破損シ修理見込ナキモノハ要部ノミ輸送ス

翼殆ント完全ナルモノナシ外觀可ナルモ使用ニ際シ貼リ代フルヲ要ス

發動機本体ニ於テ良好ナルモ機体ニ装着シテ汽車輸送シタルモノニアリテハ細部ノ部品殆トナシ然レトモ發動機ノミ梱包シテ輸送セルモノハ比較的良好ナリ

操縦装置其ノ他操縦装置計器ニハ殆ト完全ナルモノナキモ修理シ得サル程度ニアラス

之ヲ要スルニ獨逸ヨリ受領セル飛行機々体ハ部品並ニ結構ノ細部ニ於テ研究資料トシテ頗ル貴重ナル材

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

大正九年八月十二日
陸機第二七七号

料ナルモ若干ノ修理ヲ加フルニアラサレハ飛行ノ用ニ供スル能ハサルヘク發動機ハ概ネ直ニ使用シ得ヘキ狀態ナリ

一、大正九年八月十二日渡辺少將ヨリ左ノ電報アリタリ

兒玉大尉ヨリ左記電報ヲ依頼シ來リシ處獨逸飛行家及技師等雇入ノ件ハ假令三井ヲシテ契約セシムルモ該押收飛行機カ大師團陸軍用トシテ輸送セラルルモノナル以上若シ當該飛行機カ高軍籍ヲ離レ居ラサル場合ニ於テハ明ニ平和條約ノ精神ニ違反スルコトトナリ又一方從來ノ關係上徒ニ佛國側ノ感情ヲ害スル虞アリ此際愼重ノ考慮ヲ要スルモノト認ム至急何分ノ指示ヲ乞フ

左記

次官宛　兒玉報第二

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

獨逸ヨリ押收セル飛行機ヲ組立ツ之ニ其ノ部品ヲ研究セシカ為獨逸飛行家、技師、職工ノ雇入ハ此際最モ必要ナリト認ムル然レトモ目下佛國教官本邦ニ滞在中ナレハ此等ノ關係上日本政府トシテ雇ヒ入ルルコトハ穏當ヲ缺クヲ以テ日本政府ハ押收飛行機ノ輸送及日本ニ於ケル組立ヲ三井ニ請負ハシムル契約ヲナシタル理由ニ依リ往復ヲ除キ約二年間慎重ナル人選ヲナシ獨逸飛行家發動機技師、機体技師、職工若干名ヲ三井ノ店員トシテ雇入レシメ日本ニ到ラシムル如ク三井代理人ト内交渉ヲ開始セントス右ニ要スル人件費ハ輸送梱包組立ニ要スル經費トシテ輸送費中ヨリ支出シ得ラル日本政府ニ於テ引續キ雇傭セントセハ押收航空機輸送及保續費中參拾萬円ノ内ヨリ支出シ得ルモノト思考

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

押收航空器材発送ノ件
改第一二六〇号ノ八

押收航空機ニ関スル豫算擔任課変更ノ件
航發第四七八号

スヽ之ニ關シ經理上外交上ノ問題ヲ喚起スルヨト萬々無シト思考スルモ若シ不都合ノ點アラハ至急指示アリタシ

一、大正九年八月二十六日講普第一二八號ヲ以テ渡邊少將ヨリ左ノ電報アリタリ

七月二十五日「ハンブルク」發大阪商船會社「アンデス」丸ニテ發動機十二個、又八月十日同港發「ランゲ」丸ニテ發動機五個ヲ發送セリ横濱著ハ共ニ十月中旬頃ノ筈委細文、

一、大正九年九月百押收航空機ニ関スル豫算擔任課変更ニ関スル件課ヨリ主計課ニ左ノ通リ通牒ス

押收航空機ニ関スル豫算擔任別紙ノ通リ変更候條可然取計相成度候也

押收航空機ニ関スル豫算調書 大正九年八月三十日

器材課擔任

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

品目	數量	單價	計	使用決定済	残額	摘要
飛行機運搬費	一〇〇	七、〇〇〇円	七〇〇、〇〇〇円		七〇〇、〇〇〇円	
發動機運搬費	五〇〇	六〇〇	三〇〇、〇〇〇		三〇〇、〇〇〇	
自動車其他運搬費	一〇〇	二、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇		二〇〇、〇〇〇	
格納庫建築敷地借上賃	五〇〇〇	一八〇	九〇〇、〇〇〇	四九四、九二〇	四〇五、〇七〇	改修格納庫二七五ヒ三〇 新築格納庫二一九二〇〇 合計 予定
補修費	一〇〇	三、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇 部品購入予定
航空課擔任						
旅費			一〇〇、〇〇〇円	二六、六二七	七三、三七三	

(手3)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/